

石見海域漁場保全調査(食中毒原因細菌調査)

(漁場保全対策推進調査事業)

石原成嗣・井岡 久・開内 洋

1. 研究目的

腸炎ビブリオによる細菌性食中毒の発生件数は、安全衛生管理に対する各方面での取り組みにより減少傾向にあった。しかし近年 O3K6 という血清型を持つものによる食中毒が増加傾向にある。

島根県下では各港で殺菌冷海水装置を導入するなどの試みが行われているが、今回、腸炎ビブリオによる漁獲物の汚染対策の一資料とすべく、石見海域の沿岸部における腸炎ビブリオの発生状況を調査した。

2. 研究方法

試験船「明風」により、浜田・江津・温泉津沖 1 ~ 3 km の沿岸海域の表層海水を 1 ℓ 採取した。

海水は試験場に直ちに搬入後、速やかにフィルターで濾過を行った。濾過済みのフィルターを 100ml のアルカリペプトン水に投入し 8 時間培養、その後食塩ポリミキシンブイオンに移植して 18 時間培養後、クロモアガービブリオ培地上で画線培養を 18 時間行った。そして培地上に現れた紺色コロニーのうち、①オキシダーゼテストが陽性、② 0・10% 食塩加ブイオンで生育せず、③ 3・8% 食塩加ブイオンでの生育が確認できるもの、③ TSI 寒天培地で培養後、斜面が赤色で高層が黄色となるものを腸炎ビブリオ陽性とみなした。

また、陸水由来の細菌による汚染の有無を調べるため、一般生菌数と大腸菌群の有無も測定した。

3. 研究結果

今回、7月28日と9月2日に腸炎ビブリオを検出した。この海域はイカ釣りなどが行われる海域であるが、これらの漁獲物が腸炎ビブリオによって汚染されうる事が示唆された。

なお、大腸菌群は検出されなかったが、思った以上に一般生菌数が多かった。陸水の影響によるものかは不明であるが、衛生上、留意する必要があると考えられる。

	一般生菌数(cfu/g)			腸炎ビブリオ(MPN100ml)			水 温()		
	浜 田	江 津	温泉津	浜 田	江 津	温泉津	浜 田	江 津	温泉津
7月1日	25	41	7	-	-	-	22.3	22	22.3
7月28日	47	34	31	-	24	1.5	23.7	24.1	24.2
9月2日	847	118	22	1	1.7	1	26.1	26.5	26.4
9月16日	552	179	99	-	-	-	25.7	25.8	25.7

4. 研究成果

- 島根県沿岸の腸炎ビブリオ発生状況を把握することで、今後の水産物の衛生管理対策への手がかりを得た。
- 今回までの調査結果から考えて、より実用的な情報とするためには調査定点と回数を増やす必要があると考えられる。
- 食中毒の危険性という点から考えて、耐熱性溶血毒産生株、および血清型の定量も考慮する必要がある。